

令和3年度

# 学校評価総括評価表

徳島県立富岡西高等学校

◎ 1 確かな学力を身につけさせる (教務課, 進路・情報課)

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者 評価	次年度への課題と 今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価				
		評価指標	評価指標の達成度	評価	総合評価		
確かな学力を身につけさせる。	(全校レベル) I) 学習指導の充実				(評定)		
	II) 課外学習の充実				(所見)		
	(分掌レベル)						
	1) 進学型単位制の特徴を生かした魅力ある教育課程を編成する。	1) ① 令和4年度より施行される新教育課程作成にあたり、教育課程検討委員会を2回以上実施する。  ② 新教育課程編成についての外部研修等を積極的に受講し、内容を校内で共有する。					
	2) 教科指導方法を工夫改善し、分かる授業、学力のつく授業を実践する。(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」)	2) ① 相互に授業参観を行う。期間は6月と11月のそれぞれ1ヶ月間とし、2回ずつ参観を行う。少なくとも年1回は、担当教科外の授業を参観し、授業作りにおける教科横断的な視点を養う。  ② 授業評価を10月に実施し、肯定的な評価を90%以上とする。その結果を10月以降の授業改善につなげる。					
	3) 学習習慣の定着と基礎学力の向上を支援する。(知識・技能)	3) ① 基礎学力を測り、今後の指導に活かすためスタディサポートを実施する。また、学習習慣の定着を図るため、1・2年次は年4回、3年次は年2回課題テストを実施する。  ② 学習時間の記録や校外における取組について、「富西システム手帳」を活用することにより、自己管理できるよう指導を行い主体性を養う。					
	4) 理数科教育を充実させ、応用力や発展的な学力の育成を図る。(思考力・判断力・表現力)	4) ① 難関大学、ブロック大(岡山大・広島大等)の合格者をだす。  ② 駿台全国模試(ハイレベル)を積極的に受験させる。					
5) 「朝学」を計画的に実施し、有効活用を図る。(知識・技能)	5) 「朝学」の10分間を活用し、各教科の小テストや課題学習の実施を計画的に行い、知識や技能を向上させる。						
6) 補習授業を充実させる。(知識・技能)	6) ① 補習では、大学入学共通テストで全国平均点以上の獲得と志望校に合格する学力をつけることを目指す。早朝補習と8限目補習、大学入学共通テスト後に国公立大学の二次対策補習・私立大学一般入試対策補習を希望者対象に実施する。(3年次)  ② 土曜日を活用した補習を希望者対象に2・3学期で12回実施する。(1・2年次)  ③ 長期休業中の補習の出席率を90%以上とする。(1・2年次)  ④ 外部より講師を招き特別授業を実施する。						
7) 主体的な学習活動を促進して、高い志を持ち、一人ひとりが自らの在り方・生き方を考える生徒を育成する。(主体的に学習に取り組む態度)	7) ① 講演会などにおいて、システム手帳を活用させる。  ② オープンキャンパスの積極的な参加を促進する。WEBオープンキャンパスの利用を促す。(新型コロナウイルス感染症対策をさせる)  ③ 徳島県が主催するハイレベルセミナー、阿南市が主催する阪大連携事業、牟岐町で行われるサマースクール、京大連携事業等に参加させる。(新型コロナウイルス感染症対策をさせる)						

8) 各教科等における言語活動を充実させる。(思考力・判断力・表現力)

- ④ Innovation.Lab.室(進路室隣)を面接等に利用し有効に活用する。
- 8) ① 各年次で積極的に小論文模試を受験させる。
- ② グループディスカッションや面接指導・小論文に対する入試対策を実施する。
- ③ 仮志望理由書を2年次に書かせ、自己分析から自分の進路について考え表現させる。

活動計画

- 1) ① 令和4年度より施行される新教育課程作成にあたり、教育課程検討委員会を4月と7月に2回以上実施する。
- ② 新教育課程編成についての外部研修等を積極的に受講し、全国的な動向の収集や分析を行い、本校の特性を活かしたカリキュラムを編成する。
- 2) ① 相互に授業参観を行う。期間は6月と11月のそれぞれ1ヶ月間とし、2回ずつ参観を行う。優れた部分は授業者に伝えるとともに、参観者が共有し、改善すべき部分は授業者に助言することにより教員一人ひとりの授業力向上を図る。年1回は担当外の教科の授業参観を行う。
- ② 10月に授業評価を実施する。授業評価の結果を各自が分析するとともに、教科会でも分析し、各自が授業改善に努め、教科会全体でも改善を図る。
- 3) ① 1年次は年2回・2年次は年1回スタディサポートを実施し、結果を見ながら検討会を行う。また、1・2年次は年4回、3年次は年2回課題テストを実施し、基礎学力・応用力の習得を図る。
- ② 日々の学習時間・学校行事や運動部・文化部の大会等の結果について「朝学」での記入日を設け、簡単な記録をさせる。
- 4) ① 英語・数学の授業を習熟度別に実施する。
- ② 教員が入試問題を分析し、生徒のレベルに応じた授業展開が実施できるようにするために、長期休業中等を利用して研究セミナー等に参加できる機会を設ける。
- ③ 駿台全国模試(ハイレベル)を積極的に受験させるため、計画的に周知する。
- 5) 各教科と連携して小テストや課題学習等の実施計画を立て、生徒に周知する。
- 6) ① ・早朝補習は希望制で英数国で2クールに分けて実施する。  
・8限目補習は理科、地歴・公民からの選択で火水木の放課後に実施する。  
・国公立大学の2次対策補習・私立大学一般入試対策補習では志望校合格を目指す。
- ② 土曜日補習として、年間をとおしてテーマを絞った内容を提示して希望者を募集する。英数国から希望する教科を選択させて実施する。
- ③ 夏冬の長期休業中に1・2年次は英数国の補習を、3年次には希望者を対象に、進学先に応じた入試対策補習を計画する。
- ④ 外部講師を招聘して特別授業を実施する。

活動計画の実施状況

	<p>7) ① 年次集会のメモや日々の生活・学習記録にシステム手帳を活用させる。</p> <p>② 夏季休業中のオープンキャンパスや体験入学への参加を促す情報を提供する。自分から進んで活動することを促し、自らの進路や将来をしっかりと考えさせる。</p> <p>③ 徳島県主催のハイレベルセミナーや阿南市主催の阪大連携事業、サマースクール、京大連携事業などの日程を周知し、参加を呼びかける。</p> <p>④ Innovation. Lab. 室（進路室隣）を進路・情報課に関わる活動に限らず、部活動や各小規模な説明会等に活用してもらえるように学校全体に働きかける。</p>				
	<p>8) ① 1・2年次は年1回、3年次では3回小論文模試を計画し、正確な読解と小論文の書き方について指導する。</p> <p>② 学校推薦型選抜や一般選抜でディスカッションや面接を必要とする生徒を把握し、計画的に指導が行えるように進路・情報課でとりまとめる。</p> <p>③ 志望理由書添削キットを利用し、自己分析から自分の適性等を考え、文章表現させる。</p>				

## ◎ 2 生活指導の充実を図る (生徒指導課, 教育相談課)

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価指標の達成度	評価		
生活指導の充実を図る。	(全校レベル) I) 生徒指導の充実	<p>評価指標</p> <p>1) ① 常時指導を重視し全校集会や年次集会時に、頭髪・服装検査を実施するとともに、基本的生活習慣の確立を図る。</p> <p>② 遅刻者を前年度より5%以上減少させる。</p> <p>③ 朝学習遅刻指導を強化する。</p> <p>2) ① 携帯電話安全教室・薬物乱用防止教室を開催する。</p> <p>② 交通マナーアップ講話の実施と交通事故防止に努め重大交通事故ゼロを目指す。(年間交通事故件数10件以内)</p> <p>3) ① 面接週間を年間4回、特別面接週間を年間2回(6・10月)実施する。三者面談を年間1回実施する。</p> <p>② 道徳教育用教材の活用を推進する。</p> <p>4) ① 常時指導を重視し、年次集会や全校集会で生徒指導課・教育相談課・人権教育課等で連携し、いじめ防止指導を行う。</p> <p>② 学校いじめ防止基本方針に則りすべての教職員が連携し、「報告・連絡・相談」を図る。</p> <p>③ 年間3回学校生活アンケート(7・11・3月)を行い、生徒の実態を把握する。</p>			(評定)	
	II) 健康教育の充実				(所見)	
	III) 教育相談の充実					
	(分掌レベル) 1) 基本的生活習慣の育成に努める。					
	2) 規範意識や交通安全に対する意識を高め、社会人として通用するモラル・マナーを身につけさせる。					
	3) 生徒一人ひとりを大切にされた指導をとおして、豊かな情操や道徳心を育み、自尊感情を育てる。					
	4) いじめのない環境づくりに取り組むとともに、安心安全な学校の実現を図る。					

	<p>5) 教育相談を組織的に行うための校内体制を整備し、教育相談に対する教員の意識を高める。</p> <p>6) 特別な支援が必要な生徒に対して、スクールカウンセラーの協力を得て、特別支援教育コーディネーターを中心とする学校組織全体としての対応を図る。</p>	<p>④ 年間4回の面接, 2回の特別面接においていじめ防止の意識の高揚を図る。</p> <p>5) ① 相談室を必要に応じて開放する。</p> <p>② 教育相談研修会を年間4回実施する。</p> <p>6) スクールカウンセラーによるカウンセリングについて、教員・生徒・保護者に適切に連絡し、効果的に活用することで、生徒理解や支援につなげる。</p>		
		<p>活動計画</p> <p>1) ① 頭髪・服装検査(毎月)を実施する。</p> <p>② 毎週末、遅刻指導を実施する。</p> <p>③ 朝学習遅刻指導を毎日実施する。</p> <p>2) ① 携帯電話安全教室・薬物乱用防止教室を開催する。</p> <p>② 全校生徒および教職員を対象に交通マナーアップ講話を実施する。</p> <p>③ 交通マナーアップ活動(生徒会・部活動で校門前のあいさつ運動・駐輪場の整頓・施錠の徹底)を実施する。</p> <p>④ 自転車・原付自転車を整備点検し、整備不良車は再点検を実施する。(年2回)</p> <p>⑤ 毎月、学校安全の日に教職員による街頭通学指導を実施し、月～木に富西前交差点でも通学指導を実施する。</p> <p>⑥ 原付免許証取得者を対象に阿南自動車学校で実技講習会を実施する。</p> <p>3) ① 面接週間を4回、特別面接週間(6・10月)2回、三者面談を1回実施する。</p> <p>② 年次会で情報交換を行う。(随時)</p> <p>4) ① 生徒指導課・教育相談課・人権教育課・教務課等で連携を図り、年次集会や全校集会を行う。</p> <p>② 職員会議などとおして、すべての教職員が「報告・連絡・相談」の意識を強く持ち連携を図ることを周知する。</p> <p>③ 年間3回学校生活アンケート(7・11・3月)を行う。</p> <p>④ 年間4回の面接, 2回の特別面接を行う。</p> <p>5) ① 相談室を積極的に活用し、いつでも生徒が相談にできる態勢であることを知らせる。</p> <p>② 生徒の共通理解を図るために、年間4回の教育相談研修会を実施する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p>	

6) スクールカウンセラーと協力し、年間108時間の  
 カウンセリングの時間を適切に教員・生徒・保  
 護者に連絡し、計画的に実施する。

### ◎3 豊かな人間性と社会性の涵養を図る (特別活動課, 人権教育課, 総務・図書課, 国際・企画課, SSH課)

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者 評価	次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価指標の達成度	評価		
豊かな人間性と社会性の涵養を図る。	(全校レベル)	評価指標			(評定)	
	I) 特別活動の充実					
	II) 人権教育の充実					
	III) 読書活動の充実					
	IV) 国際理解教育の充実				(所見)	
	V) 主権者教育・消費者教育の推進					
	(分掌レベル)					
	1) 部活動, 生徒会活動等を活性化し連帯感を持たせ, 主体性や協働の精神, 愛校心を育てる。(思考力・判断力・表現力)	1) ① 部活動主将・部長会議を年間2回実施する。(必要に応じて適宜実施する)  ② 各種委員会を年間2回実施する。  ③ 年間を通し挨拶運動を実施する。				
2) ホームルーム活動を充実させ, 豊かな人間関係づくりを図る。(主体的に学習に取り組む態度)	2) クラス内の課題を見だし, 解決するために話し合い, 合意形成できるようなホームルーム活動を行う。					
3) 学校行事や部活動等とおして, 調和のとれた人間性の育成を図る。(主体的に学習に取り組む態度)	3) ① 学校祭へ来校する一般者数を600人以上とする。  ② 学校祭をはじめとする学校行事の満足度を80%以上とする。  ③ 部活動への入部率を90%以上とする。					
4) ボランティア活動等とおして, 社会参加の意識を高め, 奉仕の心を育む。(思考力・判断力・表現力)	4) ボランティア活動について全校生徒に周知し, 積極的に参加を促していく。					
5) 人権に対する感性を磨き, 自他の生命の尊さを認識し, 多様性を認め, 相手の立場に立って行動することができる人づくりを推進する。(思考力・判断力・表現力)	5) ① 人権学習ホームルーム活動を年間6回実施する。  ② 教職員の人権学習ホームルーム活動事前研修を年間4回実施する。(5テーマ)  ③ 「富西人権の日」を月1回実施する。					
6) 情報モラル教育を体系的に推進し, 人権が尊重された環境づくりに努める。	6) インターネットと人権について, 人権学習ホームルーム活動を実施する。					
7) 人権問題に積極的に取り組む態度の育成を図る。(主体的に学習に取り組む態度)	7) ① 人権に関する作文や作品製作をおして, 人権が尊重された環境について考える。  ② 人権委員会や社会問題研究部による啓発活動を実施する。					
8) 読書の意義や重要性について啓発を行い, 自主的な読書の習慣化を図る。(主体的に学習に取り組む態度)	8) ① 「ライブラリーニュース」の発行については, 図書委員の主体的な取組により, 定期的に年間8回以上発行する。					

<p>9) 読書をととして、人生をより豊かに生きる力を育む。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>10) グローバル社会を生き抜くための異文化理解力を養う。(思考力・判断力・表現力)</p> <p>11) コミュニケーション能力を伸ばし、国際社会の中で主体的に生きる力を育成する。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>12) 政治や選挙への関心を高め、主権者として必要な教養を身につけ、自ら行動できる力を育む。(思考力・判断力・表現力)</p> <p>13) 消費者問題やエシカル消費への意識を高め、賢い消費を実践できる力を養う。(思考力・判断力・表現力)</p>	<p>② 年2回読書会を開催する。</p> <p>9) HR文庫や学校図書館を積極的に利用することで、読書を身近なものとし、読書の習慣化を図る。年間学校図書館利用者数を6000名以上とする。</p> <p>10) 交流するために必要な実践的な言語活動を行い、平易な内容を簡潔に発信できることを目指す。(1・2年次全クラス1講座以上)</p> <p>11) 海外の高校や大学と交流を継続し、知識を活用しながら自ら考え、主体的に取り組む態度を養う。</p> <p>12) ① 社会的課題の多様性・複雑性について実感を持って捉えることができるようにするとともに、立場や意見の異なる他者とのコミュニケーション力や協働力を育成する。 ② 学校行事やホームルーム活動をとおして、実践力を養う。</p> <p>13) 一人ひとりの消費行動は社会で生じている課題とつながっていることを理解し、消費者市民としての意識を高める。(思考力・判断力・表現力)</p>		
	<p><b>活動計画</b></p> <p>1) ① 部活動部長会議を(4月・10月)に実施する。また、必要に応じて開催する。 ② 各種専門委員会、ホームルームリーダー研修会を開催する。 ③ 年間をとおし、生徒会や部活動生徒により校門前で挨拶運動を15分間実施する。雨天時は昇降口で行う。</p> <p>2) クラス内の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成できるようなホームルーム活動を年2回行う。</p> <p>3) ① 学校祭を9月実施とし、一般公開する。新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては制限を設けて実施する。 ② 各行事終了後にアンケートを実施し検証する。 ③ 部活動紹介を実施し、4月と2月で入部率を調査・把握することで、入部を促進する。</p> <p>4) JRC部を中心とし、全校生徒にボランティア活動の募集を周知する。また、ホームルーム活動の時間を利用して清掃ボランティアを実施し、ゴミの回収から分別まで正確に行う。</p> <p>5) ① 人権学習ホームルーム活動を年間6回実施する。 ② 各年次で人権学習ホームルーム活動の事前研修会を行う。 ③ 「富西人権の日」の人権に関する行事を企画・運営する。</p> <p>6) 1年次に「インターネットと人権」という主題で、人権学習ホームルーム活動を実施する。</p> <p>7) ① 人権に関する感想文や作文を書かせたり、標語・ポスター・作詞作曲・書道などの作品製作に取り組んだりさせる。</p>	<p><b>活動計画の実施状況</b></p>	

		<p>② 人権委員会で「じんけん富西」を作成し発行する。</p> <p>③ 人権委員会の富西祭での啓発，社会問題研究部の自主研修を支援する。</p>			
		<p>8) ① 図書委員会で「ライブラリーニュース」を作成・発行し，教室掲示を行う。</p> <p>② 図書委員を中心に読書会の企画・運営をする。</p>			
		<p>9) HR文庫の内容を充実させ，読書を身近なものとする。さらに図書委員がリーダーとなり読書を呼びかける。また，学校図書館においては，読書の魅力を発見できる展示の工夫に努めるとともに定期的にイベントを開催する。</p>			
		<p>10) 中国語の授業を実施し，簡単な会話の中で言語や文化を理解し，興味・関心と敬意を持たせる。</p>			
		<p>11) 海外の高校生との交流を継続する。主体的に取り組めるよう，交流の仕方を考えて教員の支援のもとに発信する機会をつくる。</p>			
		<p>12) ① 通常の授業に加えて，補助教材を用いて主権者教育をテーマにした授業を1回以上行う。(2年次選択者)</p> <p>② 各学校行事やホームルーム活動での学習をとおりして，コミュニケーション力や協働力を高める。記載台と投票箱を用いて，模擬選挙を行う。</p>			
		<p>13) エンガール消費を身近なものとして，実践できる力を養うため，授業及びホームルーム活動等とおして，知識を活用し主体的に取り組む態度を養う。</p>			

◎ 4 生徒一人ひとりの能力や個性を伸ばし，進路志望の実現を図る (進路・情報課，国際・企画課，SSH課)

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価			
		評価指標	評価指標の達成度	評価	総合評価	
生徒一人ひとりの能力や個性を伸ばし，進路志望の実現を図る。	(全校レベル) I) 進路指導の充実 II) キャリア教育の推進	<p>1) ① 個人面談，各年次部会，三者面談等で各年次に必要な進路情報誌を提供する。3年次担任会を毎週木曜日に開催し，情報の共有を図る。</p> <p>② 進路情報誌『道』を発行し，HR活動で活用する。</p> <p>③ 生徒対象と保護者対象の二部に分けて各年次で進路講演会を実施する。</p> <p>④ 3年次の生徒の分析を目的とした進路対策委員会を年間3回以上実施する。</p>			(評定)	
	(分掌レベル) 1) 生徒の能力，適性に応じた進路実現を図るため，きめ細かな進路指導を体系的に行う。				(所見)	
	2) 確かな学力を育成し，第一希望の進路実現を図る。(主体的に学習に取り組む態度)	<p>2) ① 学力対策講座ではKバック(河合塾)を全3日間で実施し，自己採点処理と校内でマーク成績処理をするとともに，実施後には補習や解説のできる時間を設ける。並行して行う教養講座では，外部講師を招聘して社会で必要な知識を身につけることのできる講座を行ったり，パソコンの資格取得を目指したりする。</p> <p>② 卒業時のアンケートで第一希望方向へ進むことができた生徒を80%以上とする。</p>				

<p>3) 計画的かつ体系的にキャリア教育を展開する。望ましい職業観、勤労観または、人生観を育成し、地域をイノベーションするグローバルな視点を養う。(主体的に学習に取り組む態度)</p>	<p>③ 3年次国公立大学の合格者数を70名以上とする。</p> <p>3) ① (1年次) SSH教育課程のもと、1年次はTN-Scopeの時間を利用し、課題研究メソッドに基づいて仮説を立て、解決策の構想を描くことができる。 (2年次) TN-scopeの時間を利用し、研究テーマに沿って自主研究を実施し、年間2回発表会において、わかりやすく伝えることができる。 (3年次) TN-scopeの時間を利用し、今まで取り組んだ研究成果を進路選択に生かし、様々な切り口から志望動機を考え表現できる。</p> <p>② 地元企業による講義を設け、仕事とは何か、どのようなことを大切にして仕事をするのがよいかを考えさせる。</p>				
	<p>活動計画</p> <p>1) ① 逆引き辞典・進学ガイドブック等良質な内容の進学情報誌等を選択し、生徒・保護者に提供する。</p> <p>② ・『道』を7月7日に発行する。 ・『道』を使った特設ホームルーム活動では担任から進路設計の指導を行い、先輩の軌跡から学ばせる。</p> <p>③ ・学部系統別進路ガイダンスを7月に実施する。(1・2年次) ・就職・公務員・実技系専門学校対象とその他進学する生徒に分かれての進路別講演会を6月に実施する。(3年次)</p> <p>④ 進路対策委員会に必要な資料を作成する。</p> <p>2) ① 学力対策講座ではKバック(河合塾)を全3日間で実施し、自己採点処理と校内でマーク成績処理をするとともに、実施後には補習や解説のできる時間を設ける。並行して行う教養講座では、外部講師を招聘して社会で必要な知識を身につけることのできる講座を行ったり、パソコンの資格取得を目指したりする。</p> <p>② 全教員で3年次の進路指導にあたる体制を強力に推進し、3年次担当以外の教員にも進路情報等の提供を積極的に行う。</p> <p>3) ① SSH事業の一環としてのTN-scopeが3年目を迎え、地域密着型の課題研究を中核に据えたキャリア教育をさらに充実させる。 (1年次) SSH教育課程のTN-Scopeにおいて、課題解決に必要なスキルを身につけ、地域密着型課題研究に向け課題を考えさせる。 (2年次) TN-scopeのもと、研究テーマに沿って自主研究を実施し、年間2回発表会を実施する。 (3年次) TN-scopeの時間を利用し、今まで取り組んだ研究成果を進路選択に生かせるように、様々な切り口から志望動機を考え表現させる。</p> <p>② 「キャリア」への意識を高める講演・講義を行う。</p>	<p>活動計画の実施状況</p>			

◎ 5 環境教育・防災教育を推進する (環境・防災課)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価			評価	今後の改善方策
			評価指標の達成度	評価	総合評価		
環境教育・防災教育を推進する。	(全校レベル) I) 環境教育の推進 II) 防災教育の充実  (分掌レベル) 1) 環境問題に強い関心を持ち、持続可能な社会の担い手を育む。(主体的に学習に取り組む態度) 2) 校内外の環境美化活動を推進し、公共心や奉仕の精神の育成を図る。(思考力・判断力・表現力) 3) 最新の災害状況を踏まえた学校防災計画を策定する。 4) 防災クラブの活動を活性化し、防災リーダーの育成に努める。(主体的に学びに向かう態度) 5) 南海トラフ地震の対応、新型コロナウイルス感染症対策など、教職員の危機管理能力の向上を図る。	<b>評価指標</b> 1) 教室における不在時の消灯などによる節電や節水を徹底する。 2) 清掃に真面目に取り組んでいると考える生徒が90%以上とする。 3) 南海トラフ地震に対応した防災避難訓練を実施し、避難後の新型コロナ感染対策などの具体的な方策を理解させる。 4) ① 年間10日以上、防災クラブの活動をおこなう。  ② 防災士の受講生徒を増加させる。 5) 防災に関する研修を年3回以上実施する。			(評定)		
		<b>活動計画</b> 1) 環境委員が節電・節水を呼びかける。 2) 全教職員で清掃箇所を分担し、校内の清掃活動を徹底する。 3) ① 津波に備えて校舎の3・4Fに避難する訓練を実施する。大津波の場合は、高台(校舎の南の山)へ避難することを周知徹底する。 ② 南海トラフ地震臨時情報が発表された場合の学校からの発信システムを理解させる。 4) ① 防災クラブを中心に近隣の高齢者宅を訪問し、転倒防止器具の設置や避難済みを知らせるカードを配布する。 ② 地域の保育園児の避難誘導を、防災クラブ中心に高校生が支援できるようにする。 ③ 防災士育成講座の案内を適宜行い、受講生への指導を行う。 5) 南海トラフ地震や新型コロナウイルスに対応できる実践力につながる研修を実施する。	<b>活動計画の実施状況</b>				

◎ 6 生徒・保護者・地域から信頼される開かれた学校づくりに努める (教務課, 総務・図書課, SSH課)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
			評価指標の達成度	評価	総合評価		
生徒・保護者・地域から信頼される開かれた学校づくりに努める。	(全校レベル) I) 積極的な広報活動の実施 II) 開かれた学校づくりの推進 III) 「働き方改革」・「学校改善」の推進。	<b>評価指標</b>			(評定)		
		<b>活動計画</b>					

(分掌レベル)

- 1) 中学生体験入学，学校公開，地域説明会等をととして，幅広く教育活動の公開に努める。
- 2) ホームページの充実を図り，積極的に情報発信を行う。
- 3) 学校評価と学校関係者評価を実施し，よりよい学校づくりに努める。
- 4) P T A 役員会，牛岐同窓会役員会等で積極的な意見交換を行うなど，地域社会との連携を図る。
- 5) コミュニティ・スクールに向けた準備を進める。

- 1) ① 中学生体験入学は，実施内容を改善し，アピール度の向上を図る。参加者は500名以上，参加者の肯定的評価を90%以上とする。  
  
上記について新型コロナウイルス対応につきWEBで実施した場合，動画のクオリティをあげ，より富岡西高校の魅力がアピールできるコンテンツを作成する。動画の視聴者は300名以上とし，視聴者の肯定的評価を90%以上とする。
- ② 学校公開の参加者は50名以上とする。WEBにおいても実施し，視聴者を100名以上とする。
- ③ 地域説明会は5ヵ所で行い，合計の参加者は200名以上とする。
- ④ 近隣中学校は年間2回以上，遠方の中学校については年1回以上訪問を行う。
- ⑤ 本校の取組，進路実績についての説明会を開き，各中学校から1名参加してもらう。

- 2) ① ホームページの更新を年間で150回以上行う。
- ② 生徒が利用しやすい内容の掲載を考える。
- ③ P T A ・同窓会のページを充実させる。

3) 教職員による学校評価推進委員会を適宜開催する。また，学校評議員を招いて学校関係者評価を実施し，学校改善に努める。

4) P T A 役員会を年4回実施する。各支部からの少なくとも1名以上の参加者を目指す。

5) 学校と地域の特色や強みを生かす，コミュニティ・スクールの仕組みづくりに取りかかる。(令和4年度から実施)

活動計画

- 1) ① ・中学生体験入学では在籍生徒の積極的な活動を取り入れ，より魅力的なものになるよう改善する。  
・理数科の課題研究発表会を中学生向けに実施する。
- ② 学校公開を年間1回以上実施し，WEBの視聴もできるようにする。
- ③ 阿南・羽ノ浦・小松島・美波・鷲敷地区で本校の教育活動等について説明する。
- ④ 上勝中学校・小松島中学校から牟岐中学校・木頭中学校間にある中学校を訪問する。
- ⑤ 各中学校の進路担当者を対象とする説明会を行う。

- 2) ① 更新担当者数を増やし，各課ごとに掲載記事を準備する等のホームページ運営組織を確立する。
- ② 各課と相談して生徒に必要な情報は何かを検討し，在学生も利用しやすい情報を掲載する。
- ③ 進路・情報課と総務・図書課で相談し，保護者・卒業生への情報発信を頻繁に行う。

(所見)



	3) コンプライアンス研修を年間30回以上行い、必要に応じて特設コンプライアンス研修を行う。				
	4) 校長との面談月間を年2回設けるとともに、必要に応じて校長・教頭と面談を行う。				
	5) 危機管理意識の向上を図る心肺蘇生法やAED使用法等の研修を行う。				
	6) 生徒玄関の手指消毒液を増やし、教室の2カ所の出入り口にも手指消毒液を置く。また、保護者に対しても紙媒体やホームページ等でコロナウイルス感染症予防のための啓発を行う。				
	7) 救命救急士を招き、心肺蘇生法やAED使用法などの研修会を実施する。				

### ◎ 8 SSH事業の推進に努める (SSH課, 国際・企画課, 進路・情報課)

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価	総合評価		
科学的探究活動から地域社会をイノベーションする人財育成に資するカリキュラムの開発に努める。	(全校レベル) I) 探究活動の充実	<b>評価指標</b>  1) ① SSH・SAでの課題研究の深化のため、構想発表会・中間発表会・最終発表会等を行う。  ② 自然科学部活動を充実させ、各種発表会・科学展などに出展する。  ③ 大学・企業・専門機関等との連携を密にして、スペシャリストアカデミー・トップリーダーセミナーを開催する。  2) ① アクティブラーニング型授業やICTを活用した授業について検討・実践する。  ② 授業改善の取組に資するため、公開授業を実施する。  3) ① 台湾海外研修を実施し、異文化理解の向上を図る。  ② 研究成果のプレゼンテーション力を上げるために、タブレットを効果的に活用する。  ③ 外部講師の助言を活かして研究成果を高め、校外のコンテストにも積極的に参加する。  4) ① 地域の医療関係機関等が主催する研修会等への参加を積極的に呼びかけ、研究の充実を図る。  ② 地元自治体が主催する地域活性化等の協議会等への参加を積極的に呼びかけ、多面的な理解を図る。  5) ① 活動の様子や取組の成果などをホームページで公開する。	評価指標の達成度	評価	総合評価 (評定)	
	II) 授業改善の推進				(所見)	
	III) 研究成果の発信					
	(分掌レベル) 1) SSH、SAや自然科学部活動の充実を図り、生徒のプレゼンテーション力や高度な思考力の育成を図る。(思考力・判断力・表現力)					
	2) 各教科科目においてアクティブラーニングやICTの活用による授業改善に努め授業内容の充実を図る。(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」)					
3) 台湾海外研修を実施して、グローバルな視点の育成を図り、各自の研究成果に活かす。(主体的に学習に取り組む態度)						
4) 教科横断的な視点をもって、地域が抱える諸問題への理解とその解決への意欲を高める。(主体的に学習に取り組む態度)						
5) 取組について広報活動を充実させる。						

② 活動や今後の予定などを周知する広報紙を作成する。

活動計画

活動計画の実施状況

- 1) ① 課題研究に関する年間指導計画を確立させ、研究の深化を図り、校外の発表会・作品展等で発表する。
- ② 自然科学部活動を充実させ、研究活動を行い、科学展や発表会に参加する。
- ③ 課題研究のテーマや研究内容に関わる領域の講師を招いて、スペシャリストアカデミーやトップリーダーセミナーを実施する。
- 2) ① 授業改善等について検討する各教科代表者からなる組織を立ち上げ、検討を進める。
- ② 関係各課・科と連携して、2学期または3学期に公開授業を実施する。
- 3) ① 訪問・研修予定の学校・機関との連携を密に行うことで、交流計画を作成する。
- ② タブレットの活用を促進し、自らの課題研究の内容や本校の特色、地元自治体の取組などについてまとめる事前研修や、本校ALT・英語教員、非常勤講師(中国語)によるコミュニケーション能力向上研修を実施する。
- ③ 大学等が主催するコンテストの募集について、全校生徒に周知する。
- 4) ① 医療や福祉に関する活動に参加しようとする意欲を高めるため、関係機関と連携する。
- ② 研修会・協議会等に参加しようとする意欲を高めるため、地元自治体等と連携する。
- 5) ① 活動の様子や成果について随時ホームページで公開する。
- ② 近隣中学校や保護者へ活動内容・成果を知らせる広報紙を作成し配布する。